

## 単元名「梅園百歳、ミニありんこ活動大作戦」

～ 学校生活を支える6年生との交流から芽生えた協同的な学び合い～

### 1 主題設定の理由

目の前にいる子どもたちを見ると、なかなか人とかかわれない子、他の子の意見を受け入れようとしていない子、また、自信がないのか、指示がないと動けない子がいる。しかし、6月中旬、児童Aたち数名が、交流している6年生が行っている「ありんこ活動」に興味をもち、アルミ缶集めを手伝い始めた。

「ありんこ活動」は梅園小独自の取り組みで、他校でいう委員会活動のことである。通常の委員会活動と異なるのは、毎年、5、6年生がより豊かな学校生活を送ることができるように必要な活動をいくつか考え、その中から、子どもたち自身が希望する活動を選び、自主的に取り組んでいるということである。今年、「梅スポ（体育関係）」「花職人（緑化関係）」「給食ねこの手（給食関係）」など、10の活動が行われている。ネーミングが子どもらしく、ユニークなものが多いため、1年生は興味をそそられるようである。「大好きな班長さんがやってるし、おもしろそう」「6年生の子が、『梅園小学校が、もうすぐ百歳になるから、もっと頑張らないといけない』って。だから、僕も頑張って、いっぱいアルミ缶を集めたい」と、自ら動き始めた子どもたち。そこには、子どもたち同士のかかわりや「もっと大きい声を出してアルミ缶のことをお願いしてみよう」など、子どもなりの工夫も生み出されようとしていた。このような児童Aたちを見て、これこそ、今、自分が求めている子どもの姿だと感じた。そこで、今回、子どもたちが興味をもち始めた「ありんこ活動」を切り口とし、6年生が中心となってお祝いの計画を進めている「梅園百歳」、来年、梅園小学校が移転百年を迎えるという、うれしい出来事も取り入れることで、子ども同士、協同しながら学び合う姿を期待したい。そして、次の百年に向け、歩みを進めている梅園小学校のように、未来に向け、自ら力強い一歩を踏み出していける子を育てていきたいと願い、1年生4人の担任も協同しながら、本実践に取り組むことにした。

### 2 研究の目標

#### (1) めざす子ども像

- ・ 子ども同士、心を寄せ、進んでかかわり合い、新たな気づき、発見、納得、葛藤、疑問などを生み出していく子
- ・ お互いのよさや可能性を認め合い、これまでの自分にはなかった、新たな見方や考え方を受け入れながら、主体的に行動しようとする子

#### (2) 仮説と手立て

【仮説1】「ありんこ活動」と「梅園百歳」をリンクさせ、魅力的な体験活動が途切れることなく展開される単元構成を工夫し、その中で交流できる場を繰り返し取り入れることで、子供同士、心を寄せ、進んでかかわり合い、新たな気づき、発見、納得、葛藤、疑問などを生み出していこう。

#### 【手立て1】「梅園百歳、ミニありんこ活動大作戦」の単元構成の工夫

「梅園百歳」と「ありんこ活動」をリンクさせ、子どもたちが興味をもち始めた「ありんこ活動」を、交流をしている6年生から自分たち1年生へ「つなぐ場」、1年生みんなで「ありんこ活動」を自分たちの活動にしていく「つながる場」、これから先、「もっといろいろやってみよう」と、未来の自分に向かい「つなげる場」と、3段階で単元を構成し、魅力的な体験活動が途切れることなく展開できるように工夫する。

#### 【手立て2】心を揺さぶり、より心を寄せ合えるための導入の工夫

子どもたちにとって自分事となるように、「梅園百歳の誕生日」「誕生日プレゼント」などの話題で心を揺さぶり、紙粘土の誕生日ケーキにろうそくに見立てた百本のストローを子どもたちが実際に立て、百年という年月の多さも少しでも体感できるように工夫する。

#### 【手立て3】子どもたち同士、顔を寄せ合い、繰り返し交流できる場の確保

活動したい内容が似ている子で4～5人のグループを作り、子どもたち同士、顔を寄せ合い、繰り返し交流できる場を確保する。そして、グループの子同士、進んで考え合ったり、お互いのアイデアや気づきを求め合うことができるようにする。

【仮説2】子どもたちの思いや願いに寄り添い、活躍の場を保証すれば、子どもたちは、お互いのよさや可能性を認め合い、これまでの自分にはなかった新たな見方や考え方を受け入れながら、より主体的に行動していくことができるだろう。

【手立て4】振り返りの場

一定の課題を解決した後に振り返りの場を設け、お互いに活動の様子を評価し合うことができるようにする。活動を振り返るためのカードを用意し、お互いに頑張ったところを認め合ったり、課題の到達度がわかるようにして、協同して取り組んだよさを味わったりできるようにする。

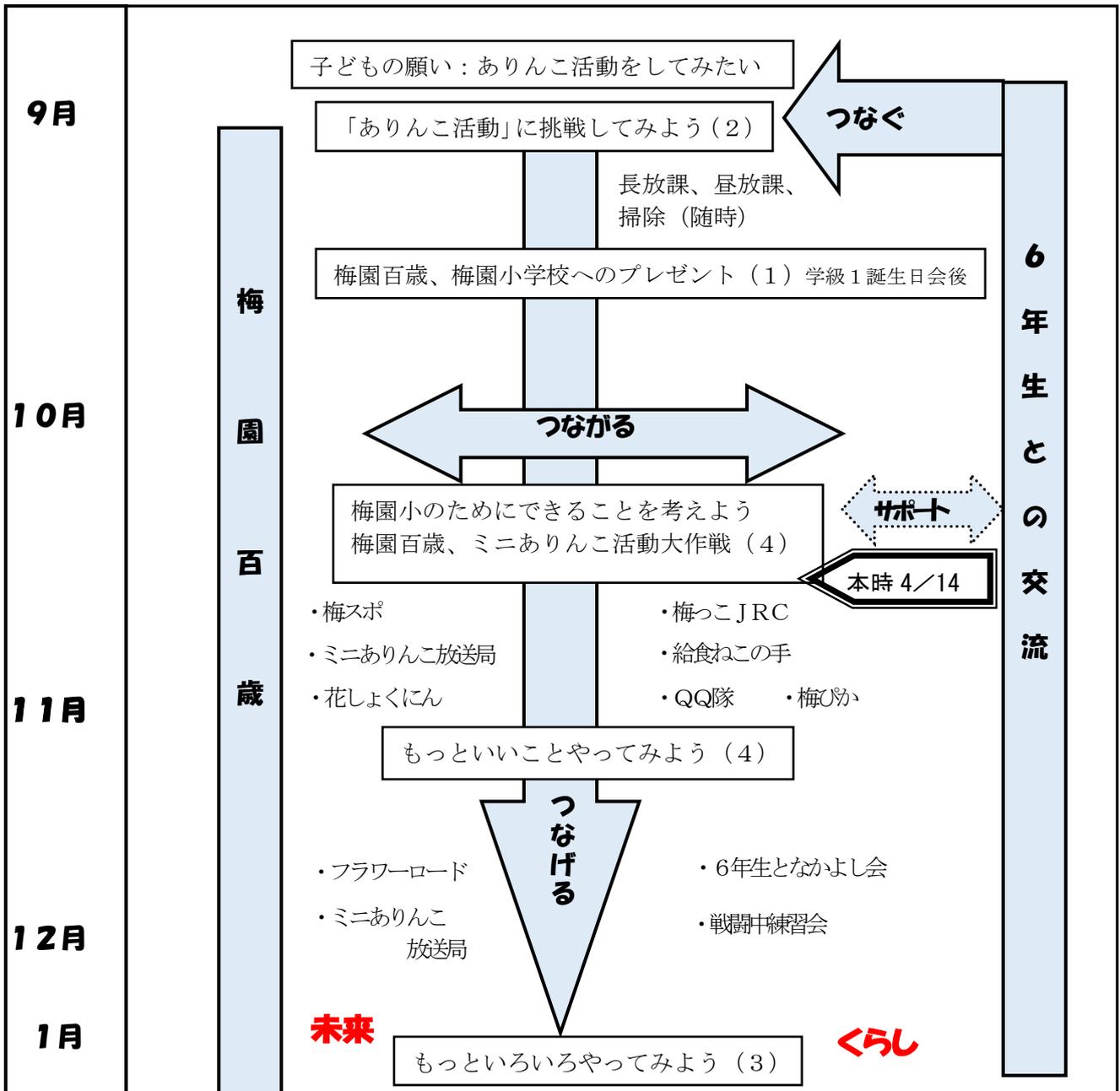
【手立て5】ミニありんこロード

各学級での取り組みの足跡を、1年生廊下に掲示していき、子ども同士がいつでも見合えるようにする。お互いのよさや可能性を認め合ったり、新たな見方、考え方を自分たちの活動に生かしていけるようにする。

【手立て6】学年での連携の重視

子どもたちの思いや願いに合わせた活動を保証できるように、柔軟に学年で取り組むようにし、必要な教師支援、また、子どもたちの活躍の場を保証する。

3 単元の指導計画



#### 4 本時の指導

- (1) 単元 梅園小のためにできることを考えよう  
梅園百歳、ミニありんこ活動大作戦 ― (本時4 / 14)

(2) 本時の目標

- ① 100歳を迎える梅園小学校のために、自分たちにもできることを考え、実践していこうとする。  
(関心・意欲・態度)
- ② 6年生は、梅園小学校や、みんなのことを考えて、いろいろ工夫しながら、「ありんこ活動」に取り組んでいることに気付くことができる。(気付き)

(3) 自ら考え、生き生きと学び合うための手だて

- ・自分たちが関心をもっているありんこ活動のリーダーの6年生から、直接、話を聞いたり、意見交換をしたりする活動を取り入れる。

(4) 展開

段階	児童の活動	教師の活動
指 向 (3)	1 グループごとに、自分たちが関心をもっている「ありんこ名」を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うめキラレンジャー</li> <li>・チャレンジMAX など</li> </ul> </div>	・事前に、話し合いによって、6つくらいの「ありんこ」に絞り、グループ分けをしておく。 ・が関心をもった「ありんこ」が活動している写真を黒板に添付していく。
課 題 (1) 追 究 (34)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                 がっこうやみんなのために、じぶんたちにもできそうなことをみつけよう             </div>	
整 理 (7)	3 各グループに分かれ、6年生から、「ありんこ活動」について、話を聞く。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うめキラレンジャーは、ごみ当番を決めて、ごみの分別をしている。</li> <li>・集めたアルミ缶は、お金にかえて、津波で怖い思いをした人のために使った。</li> <li>・6年生は、学校や学校みんなのことを考えて「ありんこ活動」をしている。</li> </ul> </div>	・交流をしている6年3組から、子どもたちが関心をもっている「ありんこ」のリーダーを招き、一人ずつ簡単に紹介する。その後、グループに分かれ、どんな活動をしているか、なぜそのような活動をしているかについて話してもらおう。 ・グループごとに、自由に話し合う時間を設ける。 ・「学校やみんなのためになる、自分たちにもできそうなことを、グループで話し合しましょう」と指示する。 ・6年生には、1年生でも無理なく活動していけるようにアドバイスをしてもらう。 ・6年生の「ありんこ活動」を真似するだけでなく、自分たちが活動しやすいように工夫できているグループを称賛する。
	4 「ありんこ活動」を参考にして、自分たちにもできそうなことを、グループで話し合う。	・よい気付きや工夫があった子を意図的に指名し、意見を聞く。
	5 グループで話し合った「じぶんたちにもできそうなこと」を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当番を決めて、ごみの分別をしよう。</li> <li>・学年下校でアルミ缶の数を報告しよう。</li> </ul> </div>	・6年生からも感想を聞き、意欲向上を図る。 ・次時は、今日、見つけたことを実行していくための話し合いをすることを伝える。
	6 本時を振り返って、思ったことを発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生は学校やみんなのことを考えて「ありんこ活動」をしていて、立派だ。</li> <li>・自分たちも、しっかりできるように頑張っていきたい。</li> </ul> </div>	

(5) 評価

- ① 学校やみんなのためになる、自分たちにもできそうなことを見つけることができたか。  
(活動4・5の様子、発言から)
- ② 6年生は、学校やみんなのために「ありんこ活動」をしていることに気付き、自分も何かできることをしたいという思いを持つことができたか。(活動3, 4, 5, 6の様子、発言から)